

[体育・保健体育]

## 自分たちで創りあげる集団行動を通して、仲間意識や 集団意識を高められる学級集団の育成

江村 祐介\*

### 1 研究主題設定の理由

新年度が始まり、クラス替えや新しい人間関係の構築に不安を抱える生徒を目にしてきた。その理由は「あまり話したことがない人がある」「どんな話をしているかわからない」「仲のいい友達が隣のクラスだった」などがあげられた。筆者も学級開きや学級活動でアイスブレイキングなどを行っているが、その頻度を多く設定することはできない。そこで、仲間との関わり合いが多く、集団的な活動が継続的に行われる保健体育の授業において、少しでも早く生徒同士がお互いのことを理解し、認め合い、信頼し合える関係作りができないかと考えた。また、年度当初の授業で行われる体づくり運動と集団行動と関連させて行うこととした。

高橋<sup>1)</sup>は、よい体育授業が実践されれば、学級集団意識にも影響をもたらすと述べている。また、中学校学習指導要領解説<sup>2)</sup>では、集団行動について「能率的で安全な集団としての行動の仕方(集団行動)とし、集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方については、従前どおり、『体づくり運動』から『ダンス』までの領域において適切に行うものとした」と明記されている。また、「集団行動の指導の効果を上げるためには、保健体育科だけでなく、学校の教育活動全体において指導するよう配慮する必要がある」とも明記されている。体づくりについて学習指導要領<sup>2)</sup>では、「体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保すること」と示してあり、話し合いから相互の信頼関係を深めるために、「相手の感情に配慮しながら発言したり、提案者の発言に同意したりして話し合いを進めることなどが大切であることを理解し、取り組めるようにする」とある。また、互いに助け合い教え合おうとするために、「運動を行う際、互いの心の変化に気付いたり、仲間の動きをよく見たりして、仲間課題を伝え合いながら取り組めるようにする」とも示されている。

田端<sup>3)</sup>は、歴史的背景から「集団行動という用語の「再検討」もなされぬがまま『手引き』は継承され、訓練としての「集団行動」が体育授業に現存している」と述べている。また、「現行の指導要領や解説を確認すると、「集合」「列の増減」などが「取り扱い」等の一部にあげられている。これまでと同様、どこかに集団行動＝行動様式とする構図が示されているように考えられる」とも示している。これまで筆者が勤務した学校の保健体育科では、年度当初に集団行動を行っていた。挨拶や整列隊形、人数報告の仕方などを生徒は学習し、年間を通して授業の開始時にそれを行っている。それは、授業だけではなく全校集会や遠足等の学校行事でも生かされてきた。筆者のこれまでの授業では、「気を付け・前ならえ・方向転換・列の増減・行進」などの一連の動きを生徒に教え、グループごとにその動きを揃えること多く、田端<sup>3)</sup>が述べる集団行動＝行動様式を学ばせるという内容であった。そのため、生徒同士の関わりや学び合いの場は少なかった。

これらの先行研究から、集団行動＝行動様式を学ばせるという授業ではなく、生徒の主体的な活動や互いの考えを認め合い、学び合う活動を展開することが、それを脱却させる重要な要素であると考えた。そこで、本研究では、生徒同士の話し合いや関わりから生まれた案をもとに、生徒たちでオリジナルの集団行動を創り上げていく。このような授業構成により、生徒の仲間意識や集団意識を高めることができるのではないかと考えた。

### 2 研究目的

本研究では、集団行動において、生徒の自発的・主体的・共同的な活動から、生徒たちでオリジナルの集団行動を創りあげていく授業構成が、生徒の仲間意識や集団意識を高め、どのような効果を与えるかを明らかにすることを目的とする。

### 3 研究方法

本研究は、生徒たちが「自分たちの集団行動」を創りあげる中で、生徒の仲間意識や集団意識にどのような効果を与えるか明らかにすることを目的とした。そのために、「授業観察」と「学習評価」、「授業後のワークシートの記述」をもとに検証する。

\*津南町立津南中学校

## ① 授業観察

新たなものを創るうえで、グループ内でどのような活動が行われているかを観察し、それにより学習評価（仲間づくり評価）や授業の振り返りにどのような変容があるかを検証する。

## ② 学習評価（仲間づくりの成果）

高橋<sup>1)</sup>が作成した仲間づくりの調査項目を使用し、授業中の活動を通して仲間意識や集団意識がもてたか検証する。項目は、①集団的達成、②集団的思考、③集団の相互作用、④集団的人間関係、⑤集団的活動への意欲の5領域についての各2つの質問に対して、はい（3点）、どちらでもない（2点）、いいえ（1点）で回答させ、平均値を算出する。

保体授業アンケート			
番	名前		
1	あなたのグループは、課題にしていたことを解決することができましたか。	はい	どちらでもない いいえ
2	あなたは、グループのみんなで成し遂げたという満足感を味わえましたか。	はい	どちらでもない いいえ
3	あなたのグループは、友達の意見に耳を傾け聞くことができましたか。	はい	どちらでもない いいえ
4	あなたのグループは、課題の解決に向けて積極的に意見を出し合うことができましたか。	はい	どちらでもない いいえ
5	あなたは、グループの友達を補助したり、助言したりしたりして助けることができましたか。	はい	どちらでもない いいえ
6	あなたは、グループの友だちをほめたり、励ましたりしましたか。	はい	どちらでもない いいえ
7	あなたは、グループがひとつになったように感じましたか。	はい	どちらでもない いいえ
8	あなたは、グループのみんなに支えられているような感じがしましたか。	はい	どちらでもない いいえ
9	あなたは、今日取り組んだグループ全員で楽しむことができましたか。	はい	どちらでもない いいえ
10	あなたは、今日取り組んだ運動をグループでもっとやってみたいと思いましたか。	はい	どちらでもない いいえ

## ③ 毎時間の学習カードの振り返り記述

毎時間の学習カードの記述から生徒の意識の変容について考察する。また、話し合いでの内容を記述させることで、具体的に検証する。

## 4 授業実践

## (1) 単元の概要

- ① 単元名 体づくり運動（集団行動）「自分たちで創る集団行動」
- ② 対象 本校中学2年2組（男子10名、女子14名）
- ③ 単元構成

時間	1	2	3	4	5	6
全体の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間目「昨年の動きを振り返ろう」</li> <li>・2時間目～6時間目「発表会に向けてオリジナルの集団行動を創ろう」</li> </ul>					
授業の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーミングアップ、あいさつ、本時の確認</li> <li>・グループごとに目標や課題の確認</li> <li>・集団行動練習</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサル</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会</li> </ul>

## (2) 指導の手立て

## ① 生徒の創造性を高める手立て

## ア 参考資料の提示

オリジナルの集団行動を生徒たちで創りあげるために1時間目に参考映像<sup>4)</sup>を視聴し、昨年行った行動様式だけにとらわれず、全員の動きを統一させればどのような動きでもいいという意識をもたせる。

## イ 生徒の動きの撮影

生徒が自分たちの創った動きがどのように見えているか、教師が一連の動きを撮影し、生徒たちで動きの質を高めたり、新たな動きを開発したりできるように支援する。

## ② グループ活動の始めに、それぞれの目標や課題を確認・共有する

前回の授業の感想や気づいたことを授業の始めに発表し合い、課題を設定し共有する。グループ活動の始めに時間を設け活動中に自分の考えを伝えることが苦手な生徒でも発表しやすいようにすることで、グループ内で意見が共有できるようにする。

### (3) 実際の授業の様子

#### ① 1時間目

1時間目は、昨年度の集団行動を振り返ることを学習課題とした。具体的な内容としては「気を付け、回れ右、左右の方向転換、列の増減」を行った。授業の前半は教師が動きのポイントを説明しながら号令を出した。動きを忘れていた生徒が多く、特に回れ右や方向転換は軸足がどちらかわからなかったり、列の増減では移動する場所がわからなかったりする生徒がいた。生徒同士で動きを確認したり修正したりできるように、授業中盤からはグループごとの活動を行った（2グループ）。どちらのグループも号令係を中心に「指先を伸ばそう」「少しずつ行進のスピードがあがっていく」などの発言がみられ、グループの中で自然と話し合い活動が行われていた。

#### ② 2～5時間目

2時間目からは「自分たちで創る集団行動」を行った。オリジナルの動きを発想しやすくするために授業の冒頭で参考映像（日本体育大学集団行動<sup>4)</sup>）を視聴した。映像を視聴しているとき生徒から「すごい」「カッコいい」「あの動きやってみよう」などの声が自然と発せられた。その後、話し合い活動を設定し「グループの課題」「やってみよう動き」「グループのテーマ・コンセプト」などを話し合い、考えを共有した後にグループごとの活動に移った。Aグループは自分たちのグループ課題をどのようにすれば解決できるか考えていた。1人の生徒がどうしてもみんなと行進を合わせられず、話し合いの中で「掛け声は〇〇さんが好きなお菓子の名前にしよう」という意見があがり、みんなで掛け声を決めて揃えようとしていた。始めはなかなか揃わなかったが、回数を重ねるごとに動きが揃う回数も増えていった。Bグループは、話し合い活動で自分たちがやってみよう動きを決めていた。具体的には全員でジャンプをして方向転換を行う、みんなで号令に合わせた掛け声を出すというもので、方向転換時のジャンプは参考映像にもあった動きだった。練習中にも、「右向け右って言って方向転換するの普通だね・・・」「それじゃ、芸人みたいに足で床をドンってやってみたら?」「いいね、やってみよう」と自然と話し合いが行われ、多くの新しい案が出てきた。

3時間目は、すぐにグループ活動を行った。両グループとも一通り終わるごとに、自分たちの課題や修正点を一連の流れが終わるごとに意見を出し合いながら活動していた。Aグループは「動きを揃える・仲間と合わせる」を目標に活動していた。前回に続き行進を中心に練習を行い、次第に動きが揃うようになっていった。揃った時にはグループから拍手が生まれた。Bグループは「ジャンプのタイミングを合わせる」を目標にしていた。前回新しく決まった方向転換の練習を中心にを行い、一連の動きの中で揃うか確認していた。授業の終盤でBグループから「別の位置で待機していて、号令の合図で整列してもいいか」と質問があったため許可した。前回の方向転換を芸人風にやってみることからヒントをうけて「お笑い集団行動」というテーマを立てた。

4時間目は授業中盤でリハーサルを設定した。今回のリハーサルでは、もう一方のグループの様子を見るかどうかはグループごとに決めさせた。これまでの練習でお互いのグループが練習の様子を見ながら活動していたからである。そのため、今回のリハーサルでは自分たちが創りあげた集団行動を主観的に確認することを目的とし、情報機器を使用して生徒たちの動きを教師が映像で撮影した。それをふまえグループごとに目標を決めさせた。Aグループは「リハーサルで間違えないようにする。しっかりと止まる（行進の最後）」、Bグループは「集合はダッシュ！方向転換をしっかりときめる」を目標にした。リハーサル後の振り返りで、Aグループは「Bグループのように始まりを工夫しよう」という案が出され、その後の話し合いで「ストーリー性をもたせた集団行動」を創ることになった。「行進の時にお菓子の名前で掛け声をかけるから、コンビニ?」「それじゃ、号令係はコンビニ店長」という話し合いが行われコンビニをテーマに新たに動きを考え練習していた。Bグループは、映像で自分たちの動きの修正や全体の流れの確認を中心に行い、その後、新たな掛け声を取り入れ練習を行った。

5時間目もグループでの活動を行った。授業始めのグループごとの話し合いでは、生徒たちの中で友達に意見を求めたり、考えにうなずいたり、同調する様子が多く見られたが、その反面グループの目標は、「みんなと合わせる」や「動きを間違えない」という単調な内容のものもあった。しかし、動き始めると具体的な提案がたくさん出され、Aグループは発表の始め方やあいさつなどを一新し、よりテーマに沿った内容へと変更していった。Bグループは、より楽しいものにするために「退場の仕方にまでこだわろう」という意見が出た。具体的な内容は少なかったが、案が出るたびに笑ったり拍手をしたり、生徒の楽しそうな雰囲気が伝わってきた。

#### ③ 6時間目

6時間目は、授業前半に練習、中盤から発表会を実施した。始めの話し合いで、Aグループは「発表会を楽しむ。コンビニ店員になりきって一致団結する。」、Bグループは「キビキビと動く。掛け声は全力で!」を目標とした。発表会までの練習では今まで以上に動きを合わせようとしていたり、少しでも納得のいく発表をしようと練習したりする生徒たちの姿が見られた。また、発表前にはグループ内で「頑張ろう」と声を掛け合う姿



写真1 Aグループ 挨拶の工夫



写真2 Bグループ発表会の様子



も見られた。発表会では、もう一方のグループの発表を見ている際に、一緒に掛け声を発したり、ユニークな動きに笑顔になったり、拍手をしていたりした。当初の計画にはなかったが、生徒が先生方にも見てもらいたいと、急遽先生方にも発表会を参観していただいた。

## 5 結果と考察

### (1) 集団行動における生徒の仲間意識・集団意識の変化（仲間づくりの成果（学習評価）、学習カードの振り返り）

#### ① Aグループ

表1は、授業後に行ったAグループの生徒へのアンケート結果である。1時間目は「集団的相互作用」と「集団行動への意識」が特に低かった。これは、昨年度行った集団行動の動きを教師が指導しながら行ったこと、生徒同士の教え合いや関わり合いの場が少なかったこと、グループが決まったばかりでお互いが気を使っているためだと考えられる。また、生徒の意欲が低くなったのは、走ったり跳んだりする活動に比べ、活動が単調で活動量が少ないことが要因であると考えられる。

表1 仲間づくりアンケートの結果（Aグループ）

領域	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
集団的達成	2.63	2.67	2.67	2.58	2.79	2.88
集団的思考	2.58	2.54	2.63	2.58	2.63	2.75
集団的相互作用	2.29	2.50	2.50	2.46	2.58	2.71
集団的人間関係	2.42	2.71	2.71	2.71	2.83	2.88
集団活動への意欲	2.25	2.63	2.71	2.83	2.83	2.88

2時間目は、「集団的思考」だけが数値が減少し、その他の項目は数値が上昇し、特に「集団活動への意欲」が上昇した。「集団的思考」の数値が減少した理由として、2時間目から生徒たちで新しい動きの案を出し合っていたが、活動中には一部の生徒しか提案をしていなかったことが要因だと考えられる。「集団活動への意欲」が上昇した理由として、授業の始めに参考映像を視聴したことで「やってみたい。面白そうだった。」と感じる生徒が増えたことが要因だと考えられる。

3時間目は、2時間目に数値が減少した「集団的思考」の数値の上昇が見られた。これは、グループ活動始めの話し合いで前回の感想を発表したこと、グループで提案された案に対して賛同する生徒が多かったためだと考えられる。

4時間目は、3項目の領域が減少した。これは、自分たちのリハーサルの動きを映像で確認したときに、できていない運動に気がついたことが要因として考えられる。「集団活動への意欲」の数値が上昇し、その他の項目が減少した。これは、リハーサル後にグループ内でストーリー性のある集団行動を創ることになったこと、それにより話し合いは行われたが自分の考えを積極的に提案できない生徒が多かったことが要因と考えられる。以下は生徒の振り返りの感想である（一部生徒）。

- ・そろってきたけど、やっぱり行進の最後がそろわない。 ・気を付けて指先が曲がっている。
- ・細かなところまで、意識して動いていない。 ・動画を見ると意外とできていないところが多かった。

5時間目は、全項目で数値の上昇が見られた。これは、テーマが決まりグループのみんなのイメージや動きが共有されたことで、新しい運動がたくさん決まり、活発な活動が行われたことが要因と考えられる。生徒の学習カードによる振り返りからも、自分の考えを提案したり、友達の動きを意識しながら練習したり、いい雰囲気の中で練習ができたことが分かる。以下はAグループの新しく決まった運動と生徒の学習カードに記述された振り返りの感想である（一部生徒）。

#### 【新しく決まった運動】

- ・店長（号令係）はドアを開く真似をしたらメロディーを口ずさむ。 ・号令係に挨拶をするとき右手で敬礼。
- ・最後のポーズはOKマークを体でつくる。

#### 【学習カード振り返り】

- ・テーマが決まり、動きを揃えようと意識して活動できた。
- ・新しい動きがどんどん出てきた。不安もあるけど、みんなで協力してきたので、本番頑張ります。
- ・前回より声も揃ってよかった。面白い集団行動が出来上がりそう。次の始めの練習で仕上げていきたいです。今日もすごく笑いながら活動できました。

6時間目は、全時間の中で一番評価が高く、特に「集団的達成」「集団的人間関係」「集団活動への意欲」は評価が高くなった。Aグループでは学習課題の設定を「恥ずかしがらずに、キビキビと動く！集団行動を楽しむ。」という設定にした。「集団活動への意欲」の領域に「楽しく活動することができた」という項目があり、その数値も高く、楽しんで活動できたことが要因だと考えられる。「集団的人間関係」は、発表に向けて最後の練習をする際にグループ内で評価をしたり、号令係からアドバイスをもらい、お互いに検討したりしたことが要因と考えられる。

#### ② Bグループ

表2は、授業後に行ったBグループの生徒へのアンケート結果である。1時間目は「集団行動への意識」が特に低かった。これは、Aグループ同様、走ったり跳んだりする活動に比べ、活動が単調で活動量が少ないことが要因であると考えられる。

2時間目から3時間目は、各項目が同等の数値、または緩やかに上昇した。これは、2時間目の時点で、ある程度グループ内でテーマが決まりつつあったことが大きな要因になったと考えられる。授業始めに視聴した参考映像をもとにグループ活動内での話合いで「やってみたい動き」を決め、そこから「お笑い」につなげることで、その動きやイメージから連想した様々な考えや運動が提案されたことで、1時間目から2時間目にかけて数値が上昇したと考えられる。また、3時間目には以下のような会話が行われた。

表2 仲間づくりアンケートの結果（Bグループ）

領域	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
集団的達成	2.73	2.82	2.91	2.73	2.91	3.00
集団的思考	2.68	2.73	2.73	2.86	2.91	2.91
集団的相互作用	2.50	2.55	2.64	2.64	2.68	2.82
集団的人間関係	2.55	2.77	2.82	2.95	2.95	3.00
集団活動への意欲	2.23	2.64	2.64	2.86	2.91	2.95

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| ①生徒「先生、入場を工夫してもいいですか？」     | ④教師「いいじゃん！やってごらん」  |
| ②教師「どういう感じ？」               | ⑤生徒「いいって！」         |
| ③生徒「〇時だよ、全員集合で始めたって話になって…」 | ⑥グループ生徒「よし！やってみよう」 |

新たな発想を生徒同士で認め合ったこと、共に創りあげようとしたことによって「集団的人間関係」の数値が上昇したと考えられる。

4時間目は、「集団的達成」の数値が減少した。これは、Aグループ同様、自分たちのリハーサルの動きを映像で確認したときに、できていない運動に気がついたことが要因として考えられる。しかし、それ以外の項目は減少せず、3項目は数値が上昇した。生徒の振り返りから、グループ内での生徒同士の関わり合いや楽しい雰囲気の中で活動が行われていたことで、数値が上昇したと考えられる。以下は生徒の振り返りの感想である（一部生徒）。

- |  |
|--|
| ・グループで話し合っ、動きをアレンジしたりできてよかったです。                  |
| ・お笑いをふくめた集団行動で、前よりいい動きになったし、キビキビ動けるようになった。       |
| ・新たな掛け声（ナイスワーク）を元気にやりたい。 ・みんなが楽しくやっていた。行進も揃ってきた。 |

5時間目は、ほぼ全ての項目で数値の上昇が見られた。授業始めに話合いで「入場だけではなく、退場にもアレンジを加えた」という生徒の考えに周りが共感したこと、自分たちのオリジナルの動きが決まったこと、その運動をすることでグループ内の楽しいという雰囲気が高まったことが要因として考えられる。以下はBグループの新しく決まった運動である。

#### 【新しく決まった運動】

- |  |
|--|
| ・号令係の合図で、ジャンプをして右向け右を行う。 ・集団行動が終わった後に、ギャラリーまで退場する。 |
|--|

6時間目は、全時間の中で一番評価が高く、特に「集団的達成」「集団的人間関係」「集団活動への意欲」は評価が高くなった。Bグループでは学習課題の設定を「集団行動を成功させる」というものにした。「集団的達成」の領域に「成しとげたという満足感を味わうことができたか」という項目があり、その数値も高いことから多くの生徒が満足感を得られたことが要因として考えられる。「集団的人間関係」はAグループ同様、発表に向けて最後の練習をする際にグループ内で評価をしたこと、号令係からアドバイスをもらい、お互いに検討したことが要因と考えられる。

#### (2) 集団行動における学級集団の仲間意識・集団意識の変化（仲間づくりの成果(学習評価)、学習カードの振り返り)

以下はAグループとBグループで行った生徒へのアンケートを学級全体で集計した結果（表3）と生徒の学習カード振り返りの感想である（一部生徒）。

表3 仲間づくりアンケートの結果（学級）

領域	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
集団的達成	2.68	2.74	2.79	2.66	2.85	2.94
集団的思考	2.63	2.63	2.68	2.72	2.77	2.83
集団的相互作用	2.40	2.52	2.57	2.55	2.63	2.76
集団的人間関係	2.48	2.74	2.76	2.83	2.89	2.94
集団活動への意欲	2.24	2.63	2.67	2.85	2.87	2.91

### 【2時間目】

・みんなで動きを合わせようとするほど、難しさを感じた。 ・行進がうまくいかなかったけど、意見を出し合って動いて良かった。 ・始めはみんなと距離感を感じたけど、だんだん打ち解けていった気がしました。 ・みんなと動きを合わせるのが大変だったけど、「〇〇してみよう」と案を出し合って、できたのでよかったです。

### 【4時間目】

・グループのみんなとたくさん話し合っアレンジしたりして楽しかったです。 ・自分たちの集団行動を見て、その後の練習できびきびと動いたり、止まることをみんなで意識したりしながら練習できてよかったです。 ・自分たちなりのアレンジを加えられたのがすごくよかったです。とてもいい雰囲気練習することができました。

### 【6時間目】

・少し失敗したところもあったけれど、これまでみんなで練習してきたことが発揮できて良かったです。 ・集団行動を通して、みんなとの絆が深まったと思います。 ・グループの人たちとたくさん話して仲良くなることができました。 ・自分たちのグループもいいパフォーマンスができたと思うし、Bグループもみんなで揃えようとしているのがわかった。 ・今年の集団行動は昨年以上に楽しくできました。たくさんの運動をみんなで考えられてよかったです。

1時間目の授業はどの領域の評価も低かった。これは、単元前半はどのようにして新しい動きを作ればいいかわからず、戸惑いがあったため低い値になったものと考えられる。学習カードの振り返りを見ても2時間目の授業ではグループ内で目標とする動きの統一がされておらず、周りとの動きを合わせることの難しさを感じる生徒が多かったことが分かる。しかし、4時間目の授業では評価の数値が上昇し、学習カードの振り返りでも、新しい動きの創作やアレンジ、課題を考えながら活動できたと実感している生徒が多かった。これは授業が進むにつれ新しい動きを創り、それをみんなでやっているときの楽しさやグループ内での雰囲気の良さを実感したことで、活発な活動が行われたと考えられる。6時間目にはどの領域も数値が高い結果となった。これは、これまで練習してきた成果を発揮でき、達成感を感じることができたためと考えられる。学習カードの振り返りを見ても、集団行動を通して人との関わりや集団行動の楽しさ、友達との絆の深まりを実感できた生徒が多かった。また、発表を見ているグループから笑顔や拍手、一緒に掛け声を出したことで、学級全体が友達の頑張りを称え、認めたことも要因として考えられる。

## 6 成果と課題

成果の1つ目として、自分たちで創りあげる集団行動が、グループ内、学級内の仲間意識や集団意識を高めることに有効であるということが明らかになった。評価においても授業が進むにつれて数値の上昇が確認できた。特に、テーマに沿った動きが決まった時の授業では多くの領域で評価が上昇したことから、単元構成の有効性が示された。

2つ目として、生徒が自分たちで動きを創る際に、単元の始めに参考映像を使用することが有効であると明らかになった。実際の授業では、参考映像の動きをまねてみて、そこから動きを発展させたり、その動きをもとにグループのテーマにつなげていったりしていた。また、動きを創る際にはテーマやコンセプトを決めてからの方が、生徒同士のイメージの共有がされやすく、様々なアイデアが生まれることがわかった。今回の実践では、グループ活動が中心としたが、今後の実践では、仲間意識や集団意識を学級全体で高めていくために、学級で1つのものを創っていく単元構成を検討していきたい。また、球技やゲーム性の高い単元でも今回のように生徒同士で新たなものを創造し、その発想を認め、実践し、面白さを共に味わう中で、仲間意識や集団意識を高められるような単元の開発も検討していきたい。

### 引用文献・参考文献

- 1) 高橋健夫『体育授業を観察評価する 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント』, 明和出版, 2003年, pp.16-19.
- 2) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編』2018年, pp.18, 56-57, 205.
- 3) 田端真弓「保健体育科における集団行動の位置づけとあり方」, 大分大学教育福祉科学部研究紀要37, 2015年, pp.225-240.
- 4) tvasahi『【集団行動】日本体育大学 最新演技』, Online video YouTube, 2014年, (<http://www.tv-asahi.co.jp/shudankodo/>, 参照日2021年4月15日)
- 5) 栢森和重「魅力ある学校に関する実践-居場所づくりと絆づくりを通して-」三重大学教育学部研究紀要71, 2020年, pp.567-575.
- 6) 澤 聡美「楽しい体育授業の満足度に影響する要因」人間発達科学部紀要11-3, 2017年, pp.31-37.